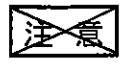


4 723 9140

722-1
18221



2018/7/18

輸送ロド下以1000枚収2枚目
2500 - 18221
2700 - 18221

イラク復興支援群活動報告

(4.10.18)

20.23.25

18.7.18

イラク復興支援群

報告項目

- 1 全般
- 2 人員、装備の状況
- 3 明日の活動予定

◎ 群主力

- 人員・武器・装具異状なし
- その他
 - ・防衛庁長官視察受け
 - ・帰国第1波クールダウン
 - ・装備品返納
 - ・群帰国第2波検数・検量
 - ・クウェート分遣班、主力に合流

◎ 後送業務隊

- ・キャンプバージニアにおける弾薬コンテナの作成(3本)
- ・10次群個人コンテナの検数・検量支援(帰国第2波)
- ・分遣班要員のキャンプバージニアへの移動支援
- ・群帰国第1波出国手続き
- ・キャンプバージニアにおける長官視察支援
- ・長官帰国見送り

搬取の進捗状況(クウェート)

区分	計画		実績 (c)	進捗度		残数	備考
	総数 (a)	当該日迄 (b)		総数比 (c/a)	計画比 (c/b)		
コンテナ	開梱 (コンテナ数)	337	153 【0】	45.4%	100%	184	
	コンテナ詰 (点数)	集計中	688	9151 【0】	—	—	—
	後送 (点数)		0	7412 【0】	—	—	—
車両	洗浄	230	62 【0】	27%	100%	168	
	後送		0 【0】	0%	0%	230	

※ 点数については、弾薬を除いた点数
【 】内は当日の実績で内数

19日(水)の活動予定

群主力	後送業務隊
<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国第1波クウェート出国 ・ バスラLOクウェートへ離脱 ・ バクダットLOクウェートへ離脱 ・ 大使館意見交換会 ・ 検数・検量(第3波) ・ CFLCC司令官表敬受け ・ 取材対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後送業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプバージニアにおける弾薬コンテナ作成(4本) ・ █████倉庫におけるコンテナの開梱(6本) ・ █████倉庫におけるコンテナ詰め(7本) ・ PWC洗浄施設における後送車両の点検及び洗車 (1次洗浄6両、2次洗浄4両) ・ 大使館通信機材撤収 ○ 群クールダウン等帰国支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 群帰国第1波の出国支援 ・ バスラLOのクウェート受入 ・ バクダットLOのクウェート受入 ・ 戦力回復移動支援 ・ 大使館意見交換会支援

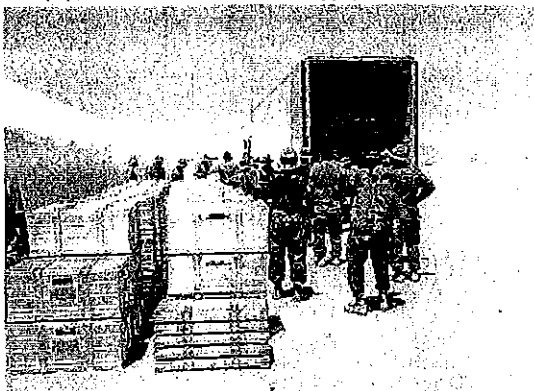
RSU活動状況(7月18日)



キャンプバージニアにおける弾薬コンテナの作成



キャンプバージニアにおける報道対応(長官視察)



個人コンテナ等の検数・検量支援(帰国第2波)



分遣班要員のキャンプバージニア移動支援

バグダッド日誌(7月18日)

○平和の尊さ(5次バグダッド連絡班日誌 最終回)

まもなく、ここバグダッドを離れクウェートに移動する。今の心境は「与えられた任務をできるだけ高い精度で達成できるよう、編成が解組される一瞬まで追い求め、イラク復興支援群全員で隊旗を無事に返還したい。」その一心である。そして今回の任務を大過なく達成することができたなら、心静かに国防任務のための精進に努力したい。

半年もの長い間、統幕・陸幕・情報本部から支えられ、サマーワ・クウェート・空自そしてコアリションの仲間に助けももらい、何一つ不安に思うことはなかった。家族には、私の好きな仕事にのみに集中させてもらい、派遣間に日本を全く心配することなく勤務させてもらった。特に妻には、寝たきりの母の介護で大変であったろうにも拘わらず、逆にイラクのことばかり心配してくれたことを心から感謝している。

またバグダッド連絡班のすばらしい仲間にも恵まれたことは、私にとって何ものにも代え難い幸運であった。■■■■が私を調子に乗せ、調子に乗りすぎた私を■■■■が諫め、■■■■が笑いをとって和ませ、■■■■が最後の砦となって連絡班の子守をしてくれた。もし叶うなら年に一度くらい、このメンバーでバグダッドでの勤務を酒のつまみに杯を交わすことが出来れば望外の幸せであろう。

今回の勤務を通して改めて感じることは、今回の派遣で新たに得られた教訓以上に、今まで自衛隊が努力してきたことが正しかったことを強調することができる。世界最強の名を欲しいままにしている米軍に決して引けをとらない高い団結・規律・士気を保ちながら、視線は常にイラク国民と同じで、イラクの復興を心から願う純粋な「真心」がある。米軍の広報担当が「サマーワの日本隊は、何故ローカル・ピープルからこんなにも支持されているのか？同じデモでも外国の軍隊に残って欲しいと陳情する自発的なデモなんて聞いたことがない。」と逆に日本隊の活動に学ぼうとしていることは、自衛隊が「心・技・体」の充実した一流の武装組織である証左であり、誇りに感じて良いと実感している。

未だ完全な復興には道半ばの首都バグダッドでの勤務を通して、祖国日本の平和の尊さを噛みしめ、今後も日本がこの平和を享受できるよう、一自衛官として努力していきたい。

派遣間のご支援どうも有り難うございました。

■■■■